

Blog22 ドイツと日本の生産性の違い【補足】

Blog19~21 では、ドイツと日本の生産性の違いの理由を主に中根千枝著「タテ社会の人間関係」より考えてきた。他にも日本文化を研究してきた方がおられるので、Blog22 では本テーマと関係ありそうな研究者の考え（書籍）を引用し紹介しておく。日本文化が理解できると思う。本テーマ「ドイツと日本の生産性の違い」は今回で終わりにする。

- 書籍：『ハーバードの日本人論』佐藤智恵著、中公新書ラクレ 2019.6 初版

第9講座 日本文学

日本人はなぜ周りを気にするのか デイヴィッド・C・アサートン助教授

- ・時代とともに変遷してきた日本人の忠誠心 p.236

戦国時代から家臣が主君を討つ傾向が強くなり、主君は家臣に忠誠を強いるようになった。江戸時代になると、武士は大名に奉仕し地位と経済性が保証される。武士は地位の見返りとして上司にひたすら忠誠をつくした。

明治時代、日本を築く中で、国民の「忠誠」が必要とされた。

- ・江戸時代の武士が何よりも重んじたのは「世間体」 p.240

天下泰平の時代、武士の本文「戦い」の機会がない。武士は本文を果たしていない自分を世間はどう見ているのかが気になる。この世間体を気にする習慣は、民衆まで広がったという。

現在の日本人の官僚的な特性も江戸時代の武家文化の産物だと思われる。

万が一失敗すれば切腹を命ぜられる。リスクのある職業なので、常に上司にうまく思われながら仕事をすることが、武士として唯一生き残る道であった。

更に、日本の終身雇用制度も、江戸時代に由来するものではないかと考えられている。

国民の
忠義

付度・迎
合

世間体

終身雇
用制度

所感 当時の武士は、クビになると再就職はあり得ない。厳しい時代の生き残り策である。江戸時代（約 260 年間）の藩の雇用形態が、現代の日本企業に脈々と受け継がれているとみて良さそうだ。現在の官民学の人々の思考や行動を見ると納得できる。今もなお仕来りを変えられない理由の一つに「非契約社会」があるのではないだろうか。 一山岡一

- 書籍『アメリカ人の性格、日本人の性格』宮城音弥著、山手書房新社 1992.6 初版

第二編 日本人の性格

1. 日本とアメリカ アメリカ大陸と日本列島の対比

〔二〕 サド・マゾヒズム p.169

- ・山と谷と村

日本人の住んでいる村の背後には山がある。林野がある。森林は谷の水を豊富にし、水田を旱魃（かんばつ）から守った。森林はまた、洪水の調整機能であった。

森林は、木材建築を発展させた。そのうえに、林野は水田や畑地にすき込む刈り敷きの草やたい肥を提供した。

山と谷と村は、こうして緊密な生態系をなし、そこには日本人的生活様式の最も伝

ムラ社会
の起源

ムラ社
会形成

統的なものが育った。過去の日本人は、自然を征服せずに生活を続けてきたのである。

所感 日本人が自然と共生してきた源流がここにある。分かり易い。

先人たちは、河川氾濫の恐れがあると、食料を持参しや家畜を連れて避難小屋に避難したという記録が多くある。現代人は、治水に守られ過ぎためか、自然との共生が弱いように思う。それが備えをしない理由の一つかも知れない。—山岡—

2. 日本人をつくった民族

〔一〕 融合された日本民族 p.174

・ 血と土 p.183

狭い土地に住み着いて、移動せず、ここで耕作を行ってきた人たちは、当然その土地で結婚したので、近親結婚が欧米に比べはなはだ多い数に上る。

部落性
と同調

このことは、各地の狭い地域に同じ体質が集中するという結果を引き起こす。身内や仲間の間では、コミュニケーションは以心伝心で行われた。同じ土地に定着し、身内や仲間をつくっている日本人は、今日になっても自分の派閥から抜け出すことができていない。派閥性は、あらゆる職業に見られるのは部落性の精神が脈々と存続している証拠である。

派閥性

自分で考え、自力でやっていくという精神は、日本では発達しなかった。

個人主義
の停滞が
「自立」を
遅らせる

この種の同調こそ——これは、仲間、身分、派閥の中の同調であって、湿度の高い機能ゆえの開放的な家、それによって子どもが個室を与えられず自分で考える習慣が発達させないからでもある——資本主義の発達にもかかわらず、日本に個人主義を発達させない原因である。

所感 中根千枝書「タテ社会の人間関係」も同じような解説がなされている。日本国の風土が培った文化ということだ。民主主義の弱い現代の日本国は、今後も「ムラ社会」で行くか、「自立」して民主主義文化をつくるか、重要な課題である。

ちなみに、日本国の民主主義は、戦後アメリカによる強制力で導入されたが、日本に民主主義文化は定着していないとみる。投票率を見ればよく分かるだろう。長い時間をかけて培われた文化を変えることは容易ではないということだ。 —山岡—

〔二〕 湿度の影響

・ 住生活と性格 p.190

日本人は水田で米を作ったこと、これが人間を狭い部屋に固定させて、派閥的性格を生む原因をつくった。

夏の蒸し暑さをさけるためには、開放的な家が不可欠であった。家の内部は、障子、唐紙、すだれというもので簡単に仕切って、独立の部屋をつくらなかった。つまり、別々の生活をしなかったために、家族全体が一つの単位として行動し易かった。

派閥性

家の中に自分の場所を持たない日本の子は、自分で考え、自分の事を自分でする習慣を持ちにくい。日本人の性格は、派閥性とも結びついていて、個人のパーソナリティ

一の発達を阻害する。

所感 土地の風土（気候・地質などの自然条件）が作り上げた習慣が文化である。欧州に比べ「自立性」が弱い理由の一つがこの辺にあるのかもしれない。—山岡—

文明（仕組み、物理面）が発達するが、文化面（心理面）が遅れる

〔四〕日本の近代化

・日本社会の表層と深層 p.206

日本は急速に近代化した。とはいえ、近代化したのは、文明と言われる構造的近代化（物理的な面）である。文化と言われる「心理面」の近代化は進展しなかったところに、日本の特色がある。

徳川時代には、一般庶民は政治権力からはっきりと除外されていたので、身分の栄達を図ろうというより、自分の仕事を達成しようとするのが良いことだという考えを強く持つようになった。

この考えと封建制度によって培われた強い義務感と責任感が相まって、進取の気質に富んだ活動力と起業精神を生み出した点に、日本とヨーロッパの共通点があるという。

進取の気質

所感 こういった日本文化が、官民学の組織に持ち込まれ、時として非合理的な仕事ぶりを繰り返す。非合理性が起こす経済ロスの挽回はボトム層が長時間労働でカバーする。このボトムの悲劇が組織を支えているのだが、上位層は分からないでいる。これ民主主義と言えるであろうか。

太平洋戦争の後、アメリカから文明と民主主義が導入された。文明は便利さゆえに輸入が容易であった。ところが、民主主義は導入できていない。「自立」という文化は物まねでは成し得ないということだ。

本テーマ「ドイツと日本の生産性の違い」に見られる日本の低さは、人々の「自立」の低さにあるとみられる。また、Blog21に示す“自然災害に備える”ためにも、日本人の「自立」が大きな課題であろう。

一方で、日本人には「進取の気質」（従来の慣習にとらわれることなく、積極的に新しい物事へ取り組もうとする気質）がある。どのように「自立」していくか、引き続き研究していくことにする。 —山岡—

以上